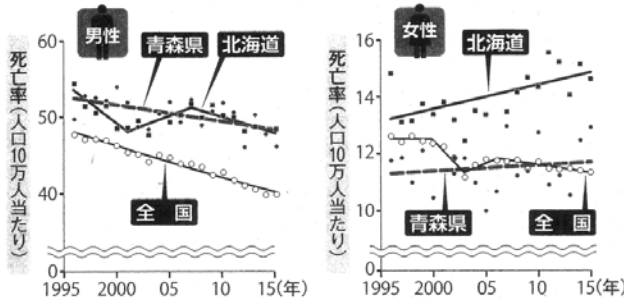


肺がん死亡率の推移 ■北海道・青森県 ○全国 ※直線はおおむねの傾向



肺がんのデータ比較

| | 北海道 | 青森県 | 全国 |
|--------------------|------|------|------|
| 肺がん死亡率 (2015年) | 48.2 | 46.0 | 39.7 |
| 肺がん検診受診率 (2013年、%) | 14.7 | 13.0 | 11.4 |
| 喫煙率 (2013年、%) | 38.3 | 46.2 | 43.9 |
| | 27.3 | 38.5 | 34.1 |
| | 39.2 | 40.3 | 33.7 |
| | 17.8 | 14.3 | 10.7 |

※死亡率は人口10万人当たり(全年齢・年齢調整済み)、研究班の資料より作成

地域がん登録 都道府県など自治体が、住民のがんの実態を把握し、地域のがん対策を推進・評価するため、医療機関の協力を得て、がん患者の罹患や生死の情報を

集める仕組み。北海道は1972年に開始。2016年から、日本中の全病院と一部診療所に同一の内容による患者情報の届け出を義務付けた新制度「全国がん登録」に移した。



斉藤真美さん

高い死亡率 データが証明 道内の肺がん 道がんセンターと弘前大分析

がんを 防ごう

研究結果は10日、第26回日本がん登録協議会学術集会(松山市)で、同センターの斉藤真美院長が発表します。

都道府県で最高

研究によると、北海道の肺がん死亡率は年々増え、2015年は男性29.10人、女性12.60人です。

研究結果は10日、第26回日本がん登録協議会学術集会(松山市)で、同センターの斉藤真美院長が発表します。

研究によると、北海道の肺がん死亡率は年々増え、2015年は男性29.10人、女性12.60人です。

研究結果は10日、第26回日本がん登録協議会学術集会(松山市)で、同センターの斉藤真美院長が発表します。

男性48・2 女性14・7 全国との差広がる

なっていることに気がきました。特に女性は、全国が減少、青森県がほぼ横ばいなのに対して、北海道は増えていました(グラフ)。

低い検診受診率

一方、人口10万人当たり何人が肺がんになったかを示す罹患率は、北海道は男女ともに全国や青森県を上回り、年代別では80歳代以降で激増していました。

北海道の肺がん検診受診率は全国を下回り、全国を上回る青森県と対照的でした。北海道の喫煙率は全国を大きく上回り、特に女性は全国一でした(表)。

一般に、たばこ消費量の減少が肺がん死亡率の減少につながるには20~25年かかると言われます。斉藤さんは、北海道の肺がん死亡率の減少のためには「短期的には検診の早期発見や死亡率を減らし、長期的にはたばこ対策で罹患率とともに死亡率を減らす必要がある」と対策を提言します。

80歳代以降の高い罹患率は「種族的ながん治療でできなかった場合に備え、終末期医療の充実も求められる」と指摘しました。

研究班の一員、北海道がん診療連携協議会の高橋将人ががん登録部会長(道がんセンター統括診療部長)は「がん登録への理解が進み北海道で質の高いデータが集まるようになった。今回のように、データを分析すると地域の課題が見え、死亡率減少への効果的な対策が立てられる。今後、乳がんなど他のがんも分析し、北海道の課題や対策を提言したい」と話しています。

喫煙の健康影響 一目で 国立研究センターリーフレット作成



国立がん研究センター(東京)は、厚生労働省の有識者検討会が昨年公表した喫煙の健康影響に関する報告書(たばこ白書)の要点が一目で分かるリーフレット「喫煙と健康」(A4判、6頁)を専員1を35万部作り、全国の自治体に送った。ウェブサイト「がん情報サービス」でも公開し、誰でも読むことができる。

白書の公表は約15年ぶり4回目。今回、日本人の喫煙や受動喫煙と病気の因果関係を科学的に初めて評価した「図表」。このほか、公共の場屋内全面禁煙化が進む世界の中で、遅れている日本に「禁煙室のない屋内100%禁煙化」を提言した。

白書は厚生労働省のホームページで読めるが600ページ近くあり、本にもなっていない。同センターは多くの人に読んでもらいたいと、日本のは多くの人に読んでほしいと、日本の現状、喫煙・受動喫煙の人への影響、世界のたばこ対策・受動喫煙対策などについて、白書の要点をカラーの図表を添えてコンパクトにまとめた。

同センターが対策情報センターたばこ政策支援部の平野公康さんは「たばこによる健康被害や日本のたばこ対策が世界から遅れている状況が一目でわかる。正しい知識や情報を得てほしい」と呼びかけている。



たばこの因果関係が「確実」と判定された病気など

たばこ対策急務

近藤啓史・北海道がんセンター院長の話

がんの中で死亡者が最も多い肺がんを、このまま放置するわけにはいかない。肺がんの死亡率の減少に一番効果があるのは、たばこ対策だ。喫煙は肺がんをはじめさまざまながんになるリスクを高める。受動喫煙も、肺がんのリスクを高くする。これは科学的に明らかだ。

北海道がこのまま対策を講じなければ、女性の肺がん死が増え続け、北海道のがん全体の死亡率が将来、全国でも高い青森県を上回ることも考えられる。道受動喫煙防止条例の制定作業が進んでいるが、厳しい対策が必要ではないか。